高等学校

平　成　8　年　度

教育研究員研究報告書

保健体育

東京都教育委員会

平成8年度

教育研究員名簿

	氏名	学校名
柔道	○柳　久美子	都立小山台高等学校
	三角　幸一	都立四谷商業高等学校
	南田　恭介	都立深川高等学校
	◎若月　高行	都立東高等学校
	大久保　敏夫	都立農林高等学校
	藤本　洋	都立小金井北高等学校
	梅原　惟司	都立田無高等学校
ダンス	阿部　正彦	都立大森高等学校
	池田　茂樹	都立南高等学校
	神崎　縁	都立野津田高等学校
	○畑中　喜八	都立立川高等学校
	佐藤　司	都立武蔵野北高等学校
	梅原　秀紀	都立三鷹高等学校

◎ 全体世話人　○ 副世話人

担当　体育部体育健康指導課　指導主事　柿添賢之

指導主事　上原健夫

指導主事　石川恵一郎

目　　次

研究主題 「主体的に考え判断し、進んで学習する能力と態度を培う学習指導の工夫」
－選択制授業における武道及びダンスの男女共習を通して（その２）－

Ⅰ　研究主題と研究の方針

１．主題設定の理由 …… 2

２．研究の方針 …… 2

３．研究の経過 …… 2～3

Ⅱ　研究の構想図 …… 3

Ⅲ　研究の内容

1. 実態調査（武道）　意識・実態調査とその考察 …… 4～6

2. 研究の視点（武道） …… 7～8

3. 選択制授業における男女共習の柔道の指導計画 …… 9～10

4. 選択制授業における男女共習の柔道の単元計画 …… 11

5. 柔道の指導事例（実証授業） …… 12

6. 武道（柔道）の指導結果と考察 …… 13

7. 武道（柔道）のまとめと今後の課題 …… 14

8. 実態調査（ダンス）　意識・実態調査とその考察 …… 15～16

9. 研究の視点（ダンス） …… 17～18

10. 選択制授業における男女共習のダンスの指導計画 …… 19～20

11. 選択制授業における男女共習のダンスの単元計画 …… 21

12. ダンスの指導事例（実証授業） …… 22

13. ダンスの指導結果と考察 …… 23

14. ダンスのまとめと今後の課題 …… 24

「主体的に考え判断し、進んで学習する能力と態度を培う学習指導の工夫」

－選択制授業における武道及びダンスの男女共習を通して（その２）－

Ⅰ　研究主題と研究の方針

１　主題設定の理由

自由時間の増加や生活水準の向上、高齢化、情報化、国際化の進展、生涯学習への気運の高まりなどを背景に、運動やスポーツの在り方も大きく変化してきている。現行の学習指導要領では、「運動」や「スポーツ」を人生をより豊かに充実させるための「生きがい」や、「文化」の一つとしてとらえ、「体育」に期待される役割として、生涯にわたって自ら進んで運動やスポーツに親しむことができる能力や態度を育成することがあげられている。具体的には、生徒一人一人が運動やスポーツの意義や価値に対する認識を深め、学ぶことの楽しさや成就感を体得するとともに、生涯体育・スポーツの基礎を培うことである。

この学習指導要領の趣旨を踏まえ、その具現化を図るため、また、本年度は昨年度の研究成果を発展させるため、研究主題を「主体的に考え判断し、進んで学習する能力と態度を培う学習指導の工夫」とした。生徒の関心・意欲・能力・適性等に応じて、運動を選択する能力を高めるとともに、生涯体育・スポーツの支えとなる自発的・自主的な学習への取り組み方や、運動の楽しさや喜びを深く味わうための学習の仕方等を身に付けさせるため「選択制授業における武道及びダンスの男女共習」を取り上げた。

２　研究の方針

本研究では、選択制授業における男女共習の武道及びダンスについて、生徒及び教師の意識・実態調査を行い、その結果をもとに仮説を設定した。その仮説を踏まえて、武道班とダンス班の２班に分かれて研究を進め、それぞれに指導計画を立案し、実証授業を行うことにより、検証することにした。

(1)　武道班では、種目として「柔道」を取り上げ、柔道の特性、男女の特性、学習経験と学習形態・学習過程、教師の効果的なかかわり方等の点から学習指導を工夫し、選択制授業での男女共習の柔道における３年間を見通した指導計画を作成し、特に導入段階となる第１学年の指導計画を中心に、その研究を進めた。

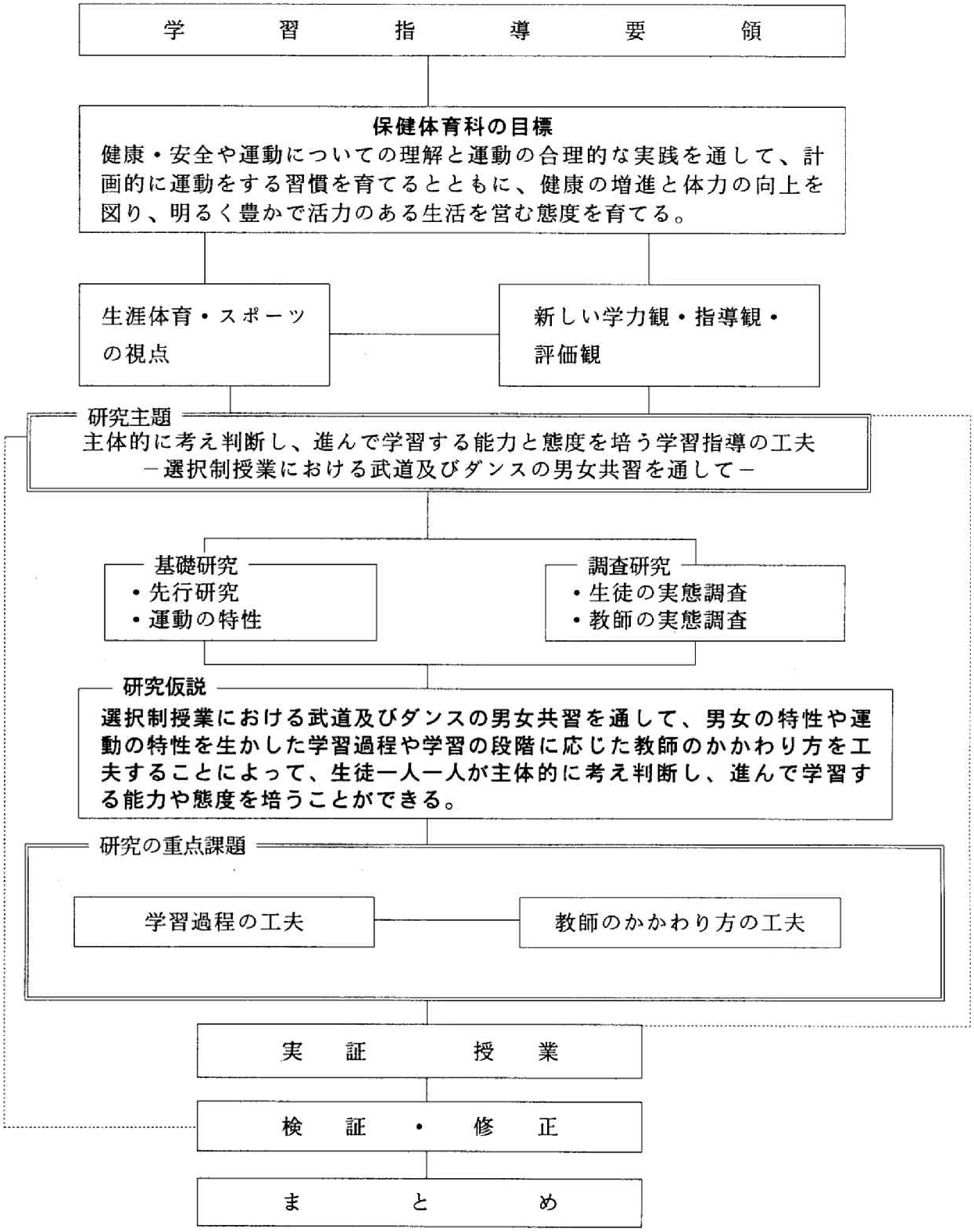
(2)　ダンス班では、導入段階での工夫を中心に、ダンスの特性、男女の特性、学習経験、学習形態、学習過程、教師の効果的なかかわり方、学習指導などの工夫を行い、選択制授業での男女共習のダンスの３年間を見通した指導計画を作成し、研究を進めた。

３　研究の経過

平成８年	４月～６月	研究主題の設定、研究計画、研究構想図の作成
	７月～８月	実態調査及び集計・分析、考察、仮説の設定、指導計画の検討

平成８年	９月～11月	指導計画の作成、実証授業、結果の分析・考察
	11月～12月	報告書の作成、副資料の作成
平成９年	１月～２月	研究発表の準備、研究発表、本研究の整理と反省

Ⅱ　研究の構想図



Ⅲ　研究の内容

1．実態調査（武道）意識・実態調査とその考察

(1)　調査期間　平成８年６月～７月

(2)　調査対象　都立高等学校保健体育科教諭　151名（男性117名　女性34名）
都立高等学校　男子生徒　１年182名　２年147名　３年136名　男子計465名
女子生徒　１年185名　２年172名　３年176名　女子計533名
男女計998名

(3)　調査内容

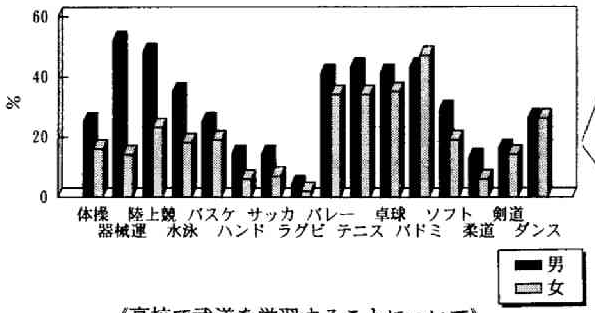
「教師」
- 選択制授業の実施状況
- 男女共習での実施種目
- 男女共習での意義、課題
- 武道に男女共習の配慮事項
- 学習形態、評価の観点

「生徒」
- 男女共習の意識
- 武道を学習することについて
- 学習形態
- 評価の方法
- 評価の観点

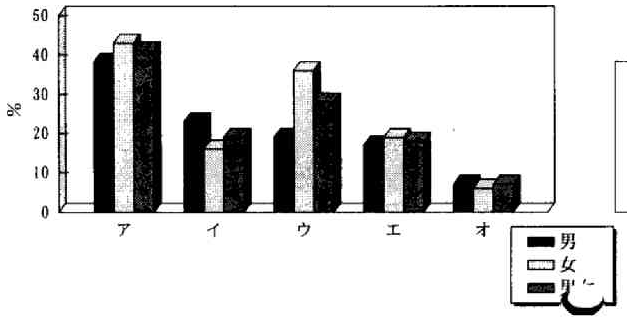
(4)　結果と考察

生徒の意識・実態 ― 結果と考察 ― 教師の意識・実態

《男女共習が可能と思う種目》
（複数回答）



《高校で武道を学習することについて》



【男女共習の種目について】

生徒が男女共習で実施可能と考えている種目について、器械運動や陸上競技等、個人的スポーツやネット型の球技に多く回答が集まった。

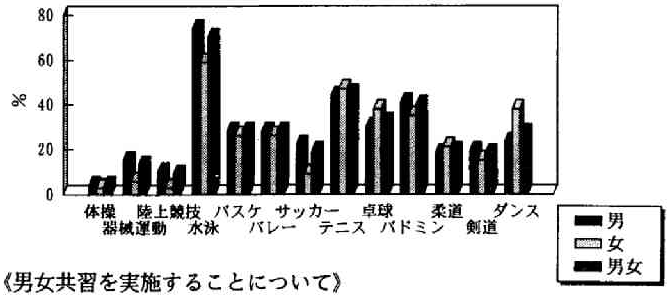
授業で実施している種目についても、水泳、テニス、バドミントン等のネット型の種目が多く実施されており、生徒の意識と教師の実施している種目の傾向は一致している。

生徒はラグビー、ハンドボール等、身体接触のある球技や武道の実施は難しいと考えている。

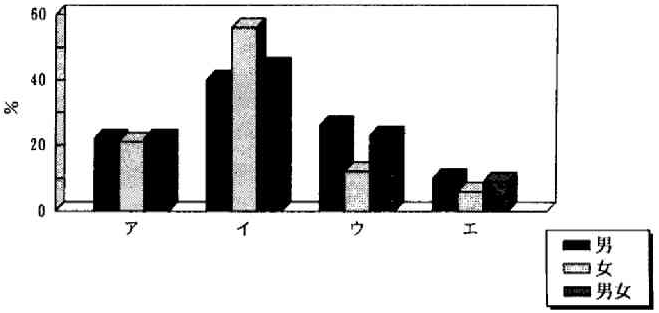
【男女共習の実施について】

男女共習で授業を実施することについて、多くの教師ができるだけ推進したいという考えをもっており、生徒自身も男女共習で学習する意義を認めている。

《選択制授業で男女共習で実施している種目》
（複数回答）

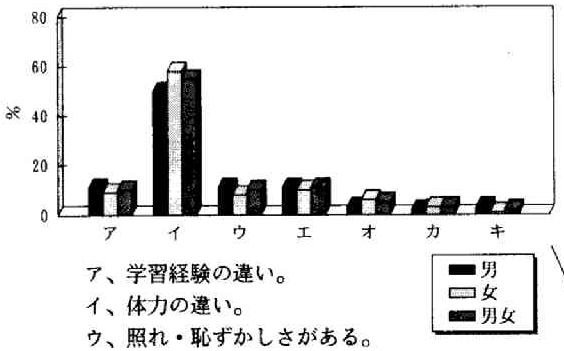


《男女共習を実施することについて》



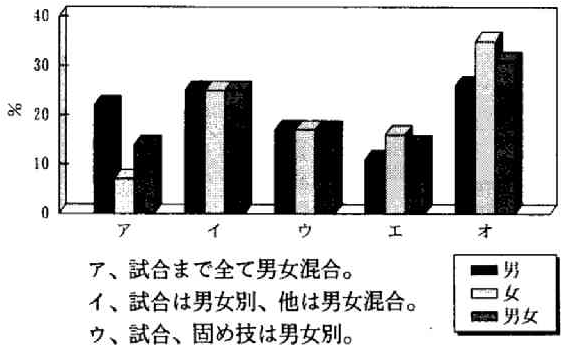
ア、体育の授業が良い機会である。
イ、日本の伝統として触れておく。
ウ、他の種目と同様に考える。
エ、できれば学習したくない。
オ、その他。

《武道を男女共習で学習するとき気になる事》



ア、学習経験の違い。
イ、体力の違い。
ウ、照れ・恥ずかしさがある。
エ、身体接触が気になる。
オ、学習内容に不安がある。
カ、評価。
キ、その他。

《学習形態の希望》



ア、試合まで全て男女混合。
イ、試合は男女別、他は男女混合。
ウ、試合、固め技は男女別。
エ、基本動作、補強は男女混合。
オ、実技は全て男女別。

【武道を男女共習で実施することについて】

武道を男女共習で学習することについて、生徒は男女共習に関係なく武道を学習することに肯定的で、良い機会としてとらえている。それに対し教師には、「武道は男子」といった固定概念があると考えられる。実際に実施しているところが少ないのも教師の考えが反映されているのではないか。領域の特性上、武道を男女共習で実施することについて、多くの課題が考えられるが、生涯スポーツへの発展、選択肢の広がりによる意欲的な授業参加等、意義があると考えられる。

【武道を男女共習で実施するときの課題】

武道を男女で学習する際の問題となることは、生徒・教師ともにお互いの体力の違いであると考えている。このことは身体接触を伴う種目の特徴であり、特に柔道の特性を考えれば、男女共習での実施は学習形態や学習過程の工夫が必要となる。

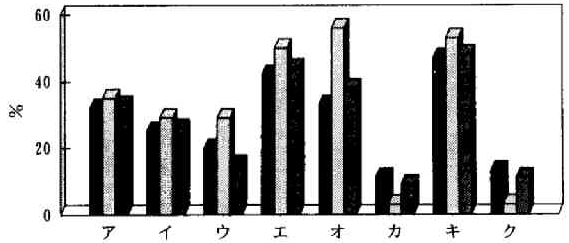
さらに、教師が指導上の問題としている「学習経験の違い」「照れ・恥ずかしさ」「関心・意欲の違い」を配慮した学習形態や学習過程の工夫も必要と考える。

武道を男女共習で実施するとき生徒は、身体接触をあまり気にしていないが、身体接触のある内容を好んでいない。生徒・教師の実態を考えると試合や技の練習は男女で組むことに配慮を要すると考える。

学習形態について、基礎的な部分を教師の指導、練習においては生徒が自主的に行う形を希望している。武道の特性を考えると選択制授業では、学習段階に応じて一斉授業とグループ学習を併用することが効果的であると考える。

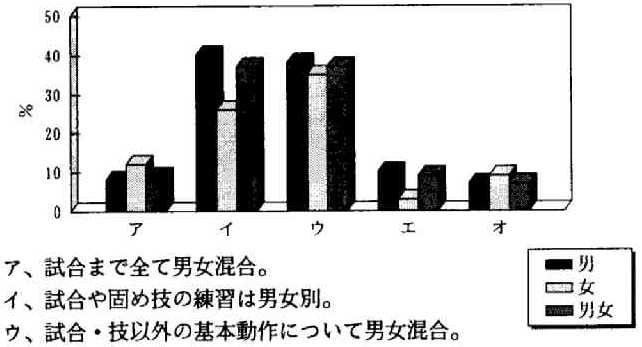
ア、積極的に推進したい。
イ、できれば推進したくない。
ウ、あまり推進したくない。
エ、全く考えていない。

《武道を男女共習で実施することの意義について》
（複数回答）



ア、協力性や思いやりが育成される。
イ、互いの特性を生かし指導・援助することができる。
ウ、学習経験を生かし指導・援助することができる。
エ、選択肢が広がり、意欲的に参加できる。
オ、生涯スポーツへ発展しやすくなる。
カ、照れ・恥ずかしさを取り除くことができる。
キ、固定概念を取り払うことができる。
ク、その他。

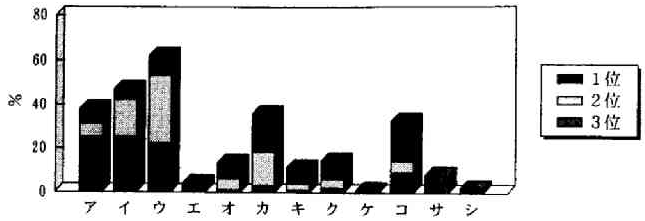
《武道を男女共習で実施する時の学習形態について》



ア、試合まで全て男女混合。
イ、試合や固め技の練習は男女別。
ウ、試合・技以外の基本動作について男女混合。
エ、実技は全て男女別。
オ、その他。

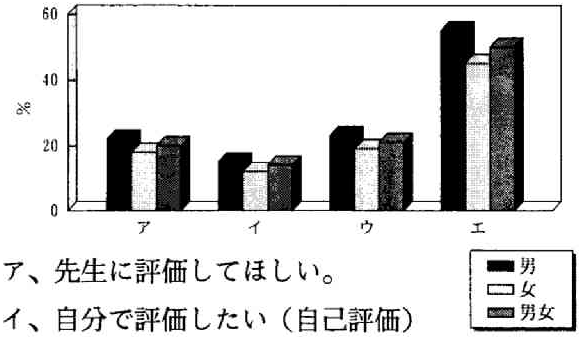
【評価について】

≪武道の評価のポイント≫



ア、技能が目標に到達したかどうか
イ、技能がどれだけ上達したか
ウ、授業中どれだけ一生懸命やっていたか
エ、グループ内でどれだけリーダーシップがとれていたか
オ、仲間同志で教え合うことができたか
カ、個人やグループの技能に合わせて、練習内容や練習方法の工夫をすることができたかどうか
キ、男女が協力して授業を進められたかどうか
ク、試合の結果や発表した作品のできばえ
ケ、鑑賞しているときの態度
コ、出席状況
サ、学習ノート等の記録
シ、その他

≪誰に評価してもらいたいか≫



ア、先生に評価してほしい。
イ、自分で評価したい（自己評価）
ウ、生徒同士でお互いに評価したい（相互評価）
エ、自己評価、相互評価を重視し、最終的には先生に評価してほしい。

評価について多くの生徒は、授業内で自己評価・相互評価を生かしながら最終的に教師が行ってほしいと考えている。また、教師の評価の重点は、学習への積極的な取り組み、技能の習得、出席状況などをポイントとしている。これからの「体育」における評価は、一人一人の生徒が自己の学習の成果、課題の達成状況や学習の仕方等について、適切に自己理解を進めながら、自己評価を中心とする評価活動を行っていく必要があると考える。

(5) 意識及び実態調査のまとめ

男女共習で授業を実施することについて、「男女間で協力が自然にできるようになる」「武道は男子、ダンスは女子といった固定概念が取り払える」といった意義を認める回答が多かった。また教師の60％が、積極的もしくはできれば男女共習を推進したいと答えていることから、男女共習を受け入れる素地は教師、生徒ともにあると考えられる。

しかし、武道を男女共習で学習することについては、体力、経験の違い等配慮を要する点が多くあげられている。

したがって、武道の男女共習を実施していくためには、指導の内容、方法、特に学習形態、学習過程の工夫、改善が必要である。

以上の調査結果から本研究では、特に男女共習における学習過程や教師のかかわり方に着目し、研究の仮説を次のように設定した。

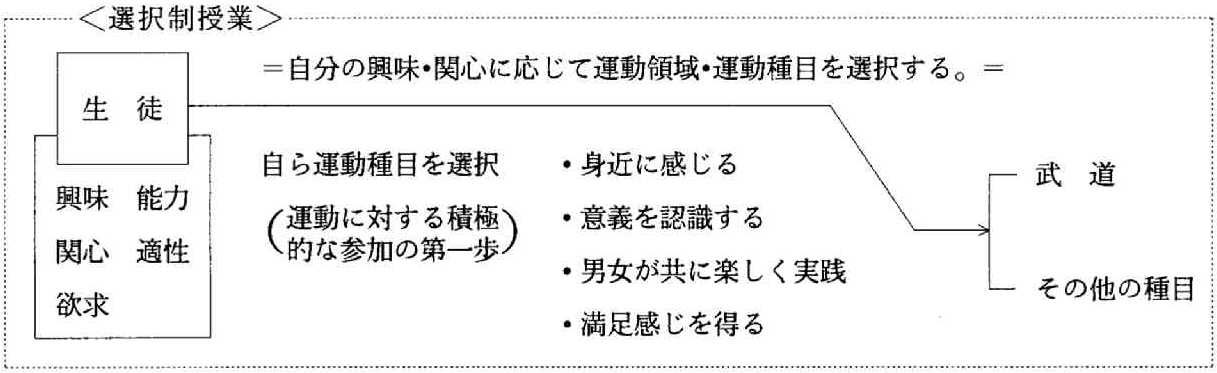
仮　説

選択制授業における武道及びダンスの男女共習を通して、男女の特性や運動の特性を生かした学習過程や学習の段階に応じた教師のかかわり方を工夫することによって、生徒一人一人が主体的に考え判断し、進んで学習する能力や態度を培うことができる。

2　研究の視点（武道）

生徒一人一人のよさや可能性を伸ばす選択制授業の実現という観点から、これまであまり取り上げられていない「選択制授業における武道の男女共習」を取り上げた。これからの選択制授業においては、合理的な運動実践の仕方について自ら学習し、同一の関心や意欲をもつ仲間と互いに協力しながら各々の課題の解決を目指すことが求められる。その前段階として、生徒が自らの能力・適性、興味・関心や欲求に基づいて運動領域・運動種目を選択することは、運動に対する積極的な参加の第一歩につながる重要な前提条件と考えられる。したがって、この武道の領域については、生徒がいかに武道を身近なものに感じ、意義を見出し、男女がともに楽しく学習し、満足することができるか、という理解と認識を生徒に深めさせることが課題となってくる。

この点を踏まえ、生徒の個性を重視し、生涯体育・スポーツの基礎となる「運動に対する自発的・自主的な態度」の育成を目指すことを視点に、研究を進めることにした。



(1)『男女共習のとらえ方』

① 特に男女のどちらかが教えるということにはこだわらず、種目の理解や技能の習得に応じて互いに援助・協力しながら学習を進めていく。

② 男女が組み合うことについては、各々が武道（柔道）の特性を十分に理解した上で、本人の意思を尊重して行うようにする。

③ 体格や体力については男女それぞれに個人差があるので、個々に応じて配慮していく。

(2)『種目の理解と楽しみ方』

① 生涯体育・スポーツにつなげるために、種目の特性を理解し、技能の違いに関係なくその種目のもつ魅力に触れることや運動を楽しむ力を身に付けることに重点を置く。

② 生徒から見た武道の特性について着目し、武道が嫌いになる要因の解決を図る。

③ 仲間とともに協力していくことや武道の特性に多く触れることで、武道に対する深い理解とその楽しみ方を発見させる。

(3)『学習過程と学習形態についての工夫』

① 対象が第１学年ということから、生徒の実態に応じた学習段階を十分に考慮した指導計画を立案する。

② 学習過程については、「はじめ」の学習として、種目の特性、男女の特性、学習経験・

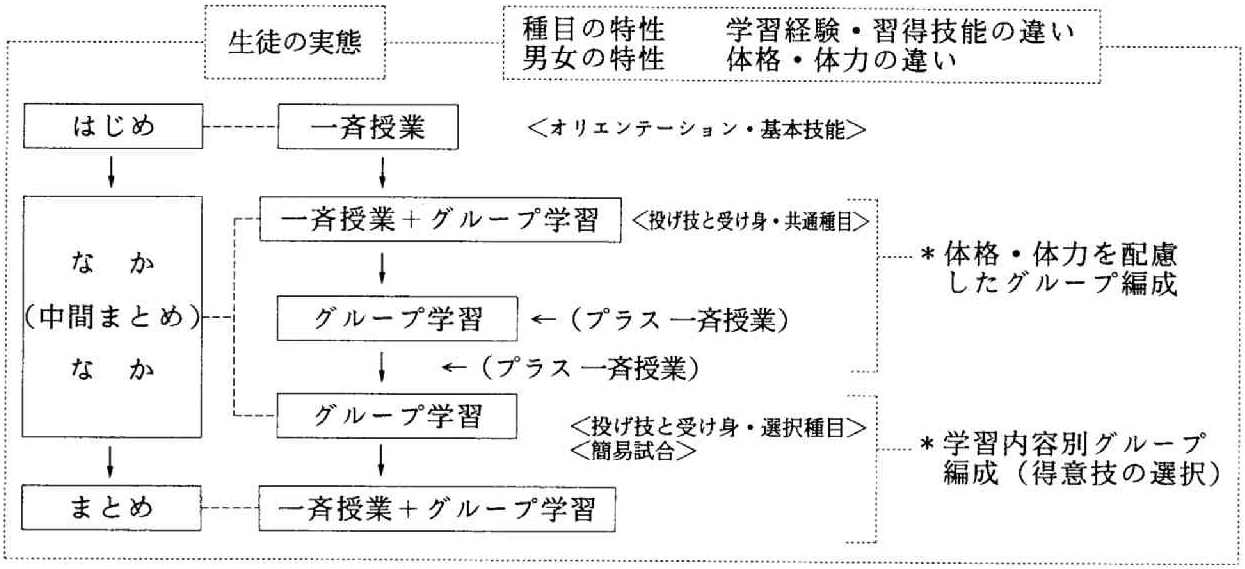
技能の習熟の違いなどを踏まえてオリエンテーションを重視し、基本動作及び技能の習得に力を入れる。

③ 「なか」の学習では、前半は安全面を強く意識し、初歩的な対人技能を学習しながら、種目の特性に触れるとともに自分たちで適切に学習課題を設定できることをねらいとする。

後半は、生徒がさらに深く種目の特性に触れながら意欲をより高めていくために、自分に合った得意技を自ら選択して学習する過程を設ける。

④ 学習形態については、体格・体力を配慮したグループ編成や学習内容別グループ編成を行いながら、一斉授業とグループ学習を学習段階に応じて併用する。

⑤ 互いに教え合い学び合う学習は、互いの課題を発見したり、解決方法を見出すことにつながり、種目の特性をより深く理解するのに効果的である。さらに、教え合い学び合う学習は、仲間と触れ合いながら協力して楽しむ態度も育成されるので、チェックカードや視聴覚教材の使用・グループミーティングそ等を有効に活用しながらその機会をできるだけ多く設定する。



(4) 『学習段階に応じた教師の効果的なかかわり方』

① 初期の段階では、生徒が、より自発的・自主的に学習するために、男女共習の意義、柔道の特性と具体的な到達目標、自己評価や相互評価の活用などについて理解させ、不安要因を把握し取り除く配慮をする。

② 課題解決の段階では、単にグループノートを通してアドバイスするだけでなく、視聴覚教材を活用した学習情報の提供や学習の計画・場及び方法の工夫等、それぞれの場面に応じた示範や言葉かけなど授業の中で積極的にグループにかかわり支援していく。特に直接的なアドバイスについてはよい点を指摘し、賞賛する機会を多くする。

(5) 『自己評価能力を高め、学習の効果をあげるための工夫』

① 学習成果、ねらいの達成状況、学習課題、学習の仕方など自分の状況を自分で把握し、理解しながら学習を進めていくために、個人カード・技のチェックポイントカード・グループノート・グループミーティングなどを活用し、生徒による自己評価・相互評価、教師による評価を毎時間行なうようにする。

3　選択制授業における男女共習の柔道の指導計画

(1)　3年間の指導計画

	ねらい	学習指導の方針	学習内容	指導の工夫と教師のかかわり方
第1学年	○柔道の特性に触れ、楽しさを味わうとともに運動に対する関心、意欲を高め、進んで学習する能力と態度を身に付ける。 ○基本動作や基本的な対人技能を習得し、個々の特性に応じて習得した技を用いて安全に配慮しながら、楽しく簡易試合を行う。	○選択制授業の3年間の見通しをもたせ、その導入段階であることを理解させる。 ○柔道の楽しさを十分体得できるよう、学習過程や施設・用具を工夫する。 ○受け身は、安全性確保のため十分に指導する。 ○学習内容や習熟度に応じて、教師主導の一斉授業とグループ学習を併用し学習形態を工夫する。	○礼法 ○基本的で単独または相互に協力して行う受け身 ○基本的な固め技及び固め技を用いた簡易な試合 ○基本的な投げ技及び簡易な試合 ○安全に留意した練習と簡易な試合	○オリエンテーションを重視し選択制授業のねらいを十分理解させる。 ○安全性を高めるために、学習する技の種類や学習順序を十分に検討する。 ○必要に応じて打ち込みマットなどを活用し、特に初心者に「受＝痛い」のイメージを生じさせない配慮をする。 ○生徒の学習活動を援助するために、掲示物、プリント、副読本、ＶＴＲ、チェックポイントカードを活用する。 ○態度の学習内容については技能の学習内容と関連させる。
第2学年	○互いの特性を生かしながら、計画的・効果的に学習活動を進める能力と態度を身に付ける ○対人的技能を習熟させるとともに、得意技の習得を目指し、それを応用しながら、楽しく安全で活発な試合を行う。	○第1学年で学習した内容を発展させ、さらに多くの技を学習させることによって、興味・関心をより高めさせる。 ○対人的技能の一層の向上を図り、個人の特性に応じた得意技を身に付けさせる。 ○個人やグループの習熟度に応じた学習計画が立案できるよう配慮する。 ○互いに助言し合い、励まし合うことの大切さを理解できるよう工夫する。	○対人的技能と関連させた受け身 ○新しく学習する固め技の習得 ○新しく学習する投げ技の習得 ○投げ技及び投げ技から固め技への連絡変化 ○得意技の習得 ○習得した固め技及び投げ技による試合 ○伝統的な行動の仕方及び相手を尊重する態度	○グループ学習の効果を高めるために、掲示物、プリント、副読本、ＶＴＲ、チェックポイントカードを活用させる。 ○生徒個人が自己の特性について理解できるよう、助言を行う。 ○各グループの課題や特性に応じた学習計画立案のための指導を十分行う。 ○安全・協力等の態度面の指導を技術の学習内容と関連させて行う。
第3学年	○進んで学習する能力と態度を十分に生かし、より主体的な学習活動を実践する。 ○試合結果を互いに分析・研究することによって、それぞれの技をさらに磨き、楽しく積極的な試合を展開する。 ○審判法を身に付け、互いに協力して試合を行う。	○第2学年までの達成度に応じて、生徒に年間の学習計画の立案やグループ編成を行わせる。 ○ＶＴＲを積極的に活用させ、試合や練習時における自己の技能分析ができるようにする。 ○得意技の習熟と数を増やす。 ○試合結果を分析させ、その後の学習計画に活用させる。 ○生涯体育に結びつくよう主体的な学習活動を展開させる。	○対人的技能と関連させた受け身の習熟 ○状況に応じた固め技の習熟 ○状況に応じた投げ技の習熟 ○得意技の習熟 ○得意技に関連した連絡変化 ○公式な試合審判規定に準じた試合と公正な態度での審判	○練習や試合をＶＴＲに撮り、互いの動きを研究させる。 ○試合のチェックシートを作成し、ＶＴＲと合わせて分析の資料にする。 ○研究方法についての指導を行い結果について理解させる。 ○試合審判規定と審判法について指導する。

(2) 1学年における指導計画

① 柔道の特性

ア 一般的特性

我が国固有の文化として伝統的な行動の仕方が重視される運動である。素手で相手と直接組み合って投げる、抑えるなどの技によって攻防を競い合うところに楽しさや喜びを味わうことができ、また、公正さ、相手を尊重する態度や協力する態度が必要とされ、礼法が重視されている。

イ 生徒からみた特性

自分の体格や体力に応じて、相手の動きを利用しながら、相手を投げて一本をとったり、一定時間抑え込むことによって楽しさや喜びを味わうことができる。

② 学習のねらい

ア 互いの学習経験や男女の特性を踏まえながら、基本動作や対人的技能の向上と練習の仕方を工夫し、互いに協力しながら自主的・計画的に学習活動を実践する能力と態度を養う。

イ 柔道の特性を理解し、個人やグループの能力や適性に応じた学習活動を行うことにより、楽しさや喜びを味わうことができるようにする。

ウ 柔道の伝統的な考え方を理解し、規則や礼法を遵守・尊重することによって、公正な態度で安全に留意しながら練習や試合ができるようにする。

エ 学習への取り組みや段階に応じた課題の設定等に対し、適切な自己評価・相互評価ができる能力と態度を養う。

③ 学習指導の方針

ア 柔道の特性を十分理解させ、基本動作や対人的技能の習熟及び柔道への興味・関心・意欲が高められるように教師が効果的にかかわるよう工夫する。

イ 対象学年が第1学年であることから、教師主導型の一斉授業によって受け身を中心とした導入を行い、生徒の習熟度に応じてグループ学習による主体的な学習活動へと移行するよう単元計画を立案し、学習過程を工夫する。

ウ 生徒の学習状況に応じて一斉学習やグループ学習を併用した学習形態を工夫する。

エ ＶＴＲやプリント、掲示物、またグループノート・個人カード・チェックポイントカードを有効に活用させ、学習活動が合理的、効果的に進められるようにする。

オ 生徒が個々の実態に応じた課題を設定したり、学習内容を十分反省できるように、自己評価・相互評価ができる機会を設定する。

④ 単元計画

本研究では、3年間を見通した選択制の男女共習の柔道の指導計画を作成し、それに基づき、その導入段階である1年次の具体的な単元計画を作成した。対象は柔道の未経験者が多い第1学年男女79名とし、30時間を配当した。学習段階としては、「はじめ」(オリエンテーション、基本技能の習得)、「なか」、「まとめ」という構成にし、未経験の生徒にも十分学習活動が進められるよう工夫した。

4　選択制授業における男女共習の柔道の単元計画

段階	時間	ねらい	学習活動	学習形態	評価	指導上の留意点と教師のかかわり方
はじめ	1	オリエンテーション　選択制授業を男女共習で行うための導入段階として**男女共習の意義と学習の進め方を理解する**とともに、はじめに教師主導型の**一斉授業で基本的技能を身に付け**ることを理解する。	①選択制授業における男女共習の意義の理解 ②最終到達目標を踏まえた年間計画の理解 ③毎時の授業の進め方の理解 ④柔道の基本的な事柄についての理解（特性、服装、礼法、技能の内容など）	一斉	☆選択制授業における男女共習の意義が理解できたか。 ☆最終到達目標を踏まえた年間計画が理解できたか。 ☆学習の進め方が理解できたか ☆柔道の基本的な事柄について理解できたか。	★３年間の選択制授業の概要を十分に説明する。 ★学年・学期ごとのねらいを説明する。 ★学習資料を見せながら説明する。 ★学習段階を十分に理解させる。 ★特に礼法や帯の締め方は実践しながら指導する。
	7	今後の学習活動が主体的に進められるように、一斉授業により、**基本動作や対人的技能を習得**し、**安全に留意**して学習が進められるようにする。	①受け身の習得 （後ろ・横・前・前回り） ②攻防を含めた基本的な固め技の習得 （けさ固め・くずれけさ固め・肩固め・横四方固め・上四方固め）	一斉（体）	☆投げ技の習得に応じられる十分な受け身が習得できたか。 ☆攻防を含めた基本的な固め技が習得できたか。	★示範によって受け身の重要性を十分理解させる。 ★固め技はなるべく多くの生徒と組み合いながら指導する。 ★固め技の簡易試合を行うことによって、興味・関心を高める。 ★体格・体力がなるべく同等になるような相手と組むよう配慮する。
	1	**達成状況を確認**する。	①学習内容の達成についての自己評価及び相互評価	一斉	☆投げ技の練習に応じられる十分な受け身が習得できたか。	★教師や経験のある生徒がテスト内容を実演し、評価のポイントを明確にする。
なか	1	３年間の**自主的な学習活動の導入**として積極的な活動を心掛けるとともに年間計画に応じて、個人及びグループの**実態に応じた学習計画を考える。**	①学習資料等の効果的活用の仕方の理解 ②個人カードとグループノートの活用方法についての理解 ③学習計画の作成の仕方の理解 ④グループ編成 ⑤学習の進め方の理解 ⑥学習計画の作成	一斉及びグループ（体）	☆学習資料や個人カード・グループノートの活用の仕方が理解できたか。 ☆グループ学習の仕方が理解できたか。 ☆学習計画の作成の仕方が理解できたか。また、実態に応じた計画が立てられたか。	★年間の単元計画を示しながら、最終到達目標が達成できるような学習計画の立案が必要なことを理解させる。 ★個人カードとグループノートＡを配布し具体例をあげて活用の仕方を説明する。 ★グループはクラスごとに男女混合とし、体格や体力を考え、また互いに援助・協力がしやすいよう配慮する。
	7	①選択制授業・**男女共習の学習方法に慣れ**、個人やグループの**毎時の学習活動を計画実践**する。 ②基本的な３つの**投げ技とその受け身を習得**し、次の学習に備える。	①毎時の学習計画の作成 各グループ共通…くずし、体さばき・ひざ車・大腰・大外刈り ②学習計画に基づく自主的な活動（グループ学習は２０分） ③グループミーティングの実施 ④個人及びグループごとの反省・評価	一斉及びグループ（体）	☆課題の達成にふさわしい適切な学習計画が作成できたか。 ☆グループごとに計画どおりの活動ができたか。 ☆男女が互いに援助・協力して学習が進められたか。 ☆安全に留意しながら活動できたか。 ☆自己評価・相互評価が適切に行われたか。	★毎時のリーダー（計画作成者）と十分な打ち合わせをして学習計画を作成させる ★グループ学習に加わり、実技指導や助言を適宜行う。（リーダーには特に援助する） ★チェックポイントカードを利用して、互いに取と受の動きをチェックさせる。 ★学習が進みにくい生徒は個別指導する。 ★生徒の習得の状況に応じてグループ学習と一斉授業の切り替えを行う。
	1	中間まとめ　**課題の達成状況の確認**と**学習活動の評価**を行い、今後の学習の進め方や学習計画の検討を行う。	①チェックポイントカードを用いてのグループごとの自己評価及び相互評価 ②今後の学習の進め方	グループ（体）及び一斉	☆前時までに学習した基本的技能や対人的技能が身に付いているか。 ☆今後のグループ学習の進め方の検討が適切に行われたか。	★個々の体力・体格の違いなどを考慮して評価しているかを確認する。 ★結果についての講評を行い、今後の学習の進め方について助言する。
	1	個々の特性に応じて次時から学習する**技の系統を選択**し、その系統ごとに**グループを再編成**する。	①次に学習する技とその特徴の理解 ②グループの再編成（系統別） ③グループミーティングによる今後の学習活動の確認	一斉及びグループ（選）	☆今後の学習のねらいが十分に理解できたか。 ☆今後学習する技の特性や特徴が十分に理解できたか。 ☆ねらいに沿ったグループが編成されたか。	★ＶＴＲやプリントを用意し、新しい技の特徴を理解させるとともに、技の選択に必要な知識を十分に説明する。 ★生徒には副読本を用意させる。 ★ねらいに沿ったグループがバランスよく編成されるよう助言する。
	8	個々の特性に応じて**選択した技を習得**するとともに、**より主体的なグループ学習**が進められるよう工夫し、運動を楽しむことを意識させながら、互いに援助・協力して学習を実践する。	①毎時の学習計画の作成 １班…背負い投げ、送り足払い、払い腰 ２班…背負い投げ、体落し、大内刈り、小内刈り ②学習計画に基づく自主的な活動（グループ学習は４５分） ③グループミーティングの実施 ④個人及びグループごとの反省・評価	グループ（選）	☆計画通り学習が進められたか ☆リーダー（計画作成者）を中心に積極的に活動できたか。 ☆男女が互いに援助・協力して学習が進められたか。 ☆安全に留意しながら活動できたか。 ☆自己評価・相互評価が適切に行われたか。	★前回のグループノートの形式を発展させたグループノートＢを配布する。 ★グループ学習に加わり、実技指導や助言を適宜行い、一層主体的に活動できるよう援助する。 ★安全に留意して学習活動が進められるように配慮する。 ★本時の反省・評価を十分に行わせ、次時の活動計画の検討をさせる。
まとめ	3	**単元のまとめ**として、**活動の成果を発表**し、次年度へのステップとして主体的に学習する態度を確認する。	①グループごとの課題達成についての自己評価・相互評価 ②簡易試合 ③個人カード・グループノートの整理 ④感想文の提出（後日）	一斉及びグループ（選）	☆柔道の楽しさや喜びが味わえたか。 ☆主体的に学習する態度が身に付いたか。 ☆男女が互いに援助・協力して学習が進められたか。	★次年度での学習活動に生かせるような反省や評価をするよう意識させる。 ★簡易試合のねらいとルールを十分に説明し、安全に配慮して試合ができるようにする。

（注）学習形態　一斉…教師主導の一斉授業，一斉（体）…教師主導の一斉授業（体力や体格を配慮），グループ（体）…グループ学習（体力や体格を配慮したグループ編成），グループ（選）…グループ学習（選択技別のグループ編成）

5　柔道の指導事例（実証授業）

単元名	柔　道	配当時間	３０時間中１５時間	学年	第1学年5，6組　男子１６名　女子１０名　計２６名

本時のねらい	○投げわざ（大外刈り）および安全な受け身を習得し、柔道についての知識や理解を深める。 ○グループミーティングを取り入れながら、グループ学習の進め方を理解するとともに、グループ学習の基礎を作る。 ○わざのチェックポイントを理解し、お互いにアドバイスしながら学習活動ができるようにする。 ○グループ学習を通して、合理的なわざを身につけるために練習方法を工夫する。 ○男女が積極的に協力して、安全に留意しながら、自発的・自主的に活動できるようにする。
施設用具	柔道場　打ち込みマット 学習資料（配布したプリント、副教材など）　グループノート　個人カード　掲示用模造紙（大外刈りのポイントを書いたもの）　ＶＴＲ

段階	時間	形態	学習内容	学習活動	指導上の留意点と教師の関わりかた	評価活動
導入	5分	一斉	・集合 ・挨拶 ・出欠点呼 ・本時の説明	・本時の学習内容を確認し、グループ内で協力して学習に取り組むことを理解する。	・前時の学習を振り返り、本時の学習に生かせるよう助言する。 ・グループ学習はリーダーを中心に安全面に留意しながら、互いに援助・協力して進めることが重要であることを理解させる。 ・グループミーティングで本時の学習活動を徹底させるよう指導する。	●○前時の反省及び本時の学容が理解できたか ●○グループミーティングの重要性が理解できたか
展開	15分	一斉	・準備運動 ・補強運動 ・受け身の練習 ・前時の復習	・準備運動をストレッチを含め、各関節を入念に行う。 ・寝わざと組み合わせた補強運動を行う。 ・２人組で後ろ受け身を中心に行う。 ・大外刈りの基本を復習する。	・初めてのグループ学習なので、準備運動等は一斉に行う。 ・準備運動や補強運動は柔道の特性を生かしたものを取り入れ、今後自主的に行えるようにする。 ・受け身についても本時の学習内容を考えながら，２人組で行う等、興味を持ってできるものを工夫する。 ・ポイントを整理しながら復習する。	○準備運動や補強運動がしっかりできたか。 ●○準備運動の基礎的な考え方がわかったか ●○補強運動の種類や方法がわかったか ○受け身が十分に練習できたか ●○ポイントが思い出せたか
	20分	グループ 体格別	・グループミーティング学習計画の確認 ・「大外刈り」の習得	・本時のリーダーがグループ員に本時のねらいと学習内容・進め方を徹底する。 ・グループごとにリーダーが中心になって学習活動を進める。 ＜例＞１班 1，かかり練習① 5分 ５本ずつ取りと受けを交代 2，かかり練習② 5分 10本ずつ取りと受けが交代 10本目で投げる） 3，約束練習 10分 ３本ずつ取りと受けを交代 ＜例＞２班 1，イメージトレーニング 5分 ・ＶＴＲを繰り返し見る ・わざのポイントを確認する 2，かかり練習 5分 10本ずつ取りと受けが交代 10本目で投げる） ・３人組で１人がチェック 3，約束練習 10分 ３本ずつ取りと受けを交代	・事前に各グループのリーダーと打ち合わせを行い、学習計画の作成と進め方を十分指導しておく。 ・グループ学習の今後の発展に向けて、各グループで計画や練習方法を工夫するように指導する。 ・グループミーティングの目的が果たされるよう適宜助言する。 ・各グループの様子を常に観察しながら、実技指導や助言を行う。 ・グループ内での観察・助言・援助を工夫さる（チェックポイントカードの利用等） ・うまくできない生徒がいるときには次のようなアドバイスをし、グループ内で協力しながら練習を工夫させる。 @配布されたプリントを活用させる。 @柔道場の掲示を活用させる。 @注意するポイント（くずし、体さばき、受け身等）を具体的にチェックさせる。 @打ち込みマットを利用させる。 @ＶＴＲや模範演技を見させる。 ・男女が積極的援助・協力しあえるよう配慮する。 ・安全に留意しながら活動するすることの重要性を強調する。 ・生徒の状況に応じて、必要と判断した時に授業に切り替える。	○本時のねらいや学習活動は理解できたか ●各グループで工夫した学習計画が立てられているか ●自主的・自発的に活動が行われているか ●◎グループ内での観察・助言・援助が見られるか ●○基本的なポイントが理解できているか ◎うまくできない仲間はいないか ●◎うまくできない原因がわかっているか ●○習得に向けて練習に工夫がみられるか ●○男女が互いに援助・協力して学習できたか ●○けが等はなかったか
	5分	グループ	・個人カードの記入と回収 ・学習活動の反省	・個人カードの項目に沿って、自己評価・相互評価を行い、グループごとに回収する。 ・グループ内で意見交換を行う。	・評価が円滑に行えるよう助言する。 ・今後の学習活動のための評価であることを理解させる。	◎○大外刈りと受け身は十分に習得することができたか ◎○学習への参加の姿勢等はどうであったか ●評価活動が円滑に行われているか
整理	5分	一斉	・整理運動 ・本時のまとめと次時の予告 ・挨拶 ・解散	・使用した部位を中心に行う。 ・今後の学習活動のためにグループノートを十分活用することと次時のリーダーに適切な申し送りをすることを理解する。	・グループ学習の意義を再確認させる。 ・「大外刈り」のポイントを整理させる。 ・本時の評価及び反省を行い、今後の学習計画の作成や学習活動に生かすよう指導する	●○大外刈りのわざのポイントが理解できたか ●本時のねらいが達成されたか

（○自己評価　◎相互評価　●教師評価）

6　武道（柔道）の指導結果と考察

仮説を検討するため、実証授業の後に、授業を受けた生徒を対象にした「武道についてのアンケート」を実施した。その調査結果と考察は以下の通りである。

(1)　武道についてのアンケート

（対象：都立高等学校１校　第１学年男子14名　女子10名　計24名）

①「相手を投げたり抑え込んだりすることは楽しかった」と答えた生徒は22名（92％）おり「上手に投げられるようになった」「受け身をきちんとできるようになった」と答えた生徒も18名（75％）いた。また「２年次以降も柔道をしてみたい」と答えた生徒が特に女子に多い（８名中６名女子）ことなどから、今回の授業を通じて「柔道」の楽しさが何らかの形で味わえたと考える。

②　男女共習の授業形態については「照れや恥ずかしさはなかった」「男女は分けなくても柔道はできる」と答えた生徒が23名（96％）おり、我々教師が想像していたほど生徒が男女共習に違和感を感じていないことがわかる。また男女共習が「楽しかった」「互いに援助・協力できた」と答えている生徒が20名（83％）おり、男女共習の効果が表れた。

③「初心者ばかりだったので、１学期に先生から基本的なことを教えてもらってよかった」と答えた生徒は23名（96％）おり、今回の柔道に関しては基本動作・技能の習得を教師主導で１学期に行ったことが生徒にとっては、その後のグループ学習を行う上でも大変有効であった。また「一斉学習後にグループ学習の形態で授業を実施したので、自分たちで適切に学習課題を設定できた」と全員が答えていることから個人の能力や習熟度を理解するためにも初期の段階での一斉指導は必要である。

④「自分たちで計画を立てることによって楽しく意欲的に学習することができた」あるいは「グループ学習においては、互いに援助・協力しながら活動できるので一斉授業よりも学習意欲が高まった」と23名（96％）の生徒が答えている。このことから、授業への取り組み方や各自の課題を明確にして意欲的に学習していく生徒の姿勢がうかがえる。

⑤「ＶＴＲ・チェックポイントカード・道場の掲示等は技の習得に役立った。」という問いには全員が「そう思った」あるいは「まあまあそう思った」と答えている。従来の教師の説明・示範だけでなく、「視覚」に訴える学習資料が有効であり、学習計画の立案に参考になっている。

⑥「自己評価・相互評価することによって、自分の学習活動を振り返ることができるとともに、生徒同士で互いに教え合うことができた。」と答えた生徒も23名（96％）いた。これは「自己の技能の習熟度や課題を明確にしたり、あるいは他の生徒の技能を分析し、適切なアドバイスをする上で「教師による評価」だけではなく、生徒自身の「評価活動」が、いかに重要であることを生徒自身が感じ取り、理解した結果と考えられる。

⑦　柔道を選択した感想については、「技や受身を習得できた」と答えている生徒も多くいたが、また一方では「楽しかった」「柔道をテレビで観るのが楽しくなった」「協力し合うことができた」「グループ学習ができた」といったような、今回の「選択制授業における男女共習」ならではの内容が多かった。

⑧　教師の指導やアドバイスについては特に女子については「手本を見せてもらったこと」

「先生と組んでもらうとわかりやすい」という声が多かった。このことから、生徒同士では十分に教え合えない部分に教師がかかわったことが生徒の技能の習得に効果があったと考えられる。

7　まとめと今後の課題

(1)　まとめ

本研究において武道班は選択制授業における武道（柔道）の男女共習を通して、研究を進めてきた結果、次のことが明らかになった。

①　柔道の特性を理解したり、生徒自身が主体的に学習計画を立てるためにも、初期の段階の基本動作の習得（受け身・投げ技）では教師主導の授業形態を中心に行う必要がある。この学習が技や動作の熟練を目指したグループ学習へと円滑に移行していく際に大変効果があった。

②　男女共習の形態を１年次から取り入れることは、男女が自然に体育の授業に参加する環境をつくることができ、従来懸念されていたような男女の体力の違いや照れや恥ずかしさなどの問題も教師・生徒ともにあまり感じることなく授業ができた。

③　男女共習の柔道で特にグループ内の相互評価によって、互いに動作をチェックしたり教え合う姿勢が身に付いてくると同時に、男女別や教師主導型の授業では具体的に認識できなかった自己のよさを引き出すことができた。

④　生徒自身が自己の能力や適性に応じた投げ技を選択する学習においては、「技を一通り学習する」柔道の授業に比べて生徒は意欲的に取り組んでいた。これは生徒の柔道に対する興味・関心を深め、主体的に学習する態度を培うことに効果があった。

⑤　学習計画を立てたり、グループ学習を進めていく中で実技のポイントを生徒同士がうまく教え合えなかった場合の教師による示範・ＶＴＲ・チェックポイントカードの活用が大変有効で、生徒主体の学習活動に効果的にかかわることができた。

(2)　今後の課題

①　主体的に学習する態度を培うための学習過程の工夫を一層図る必要がある。

②　視聴覚機材等の学習教材を開発する必要がある。

③　各学校の実態に即した武道の指導計画を作成する必要がある。

8　実態調査（ダンス班）　意識・実態調査とその考察

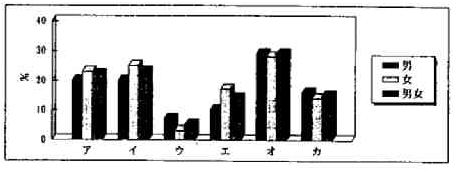
(1)　調査期間　平成８年６月～７月
(2)　調査対象　都立高等学校保健体育科教諭　151名（男性117名　女性34名）
都立高等学校　男子生徒　１年182名　２年147名　３年136名　男子合計465名
女子生徒　１年185名　２年172名　３年176名　女子合計533名
男女合計998名

(3)　調査内容　「教師」
・男女共習の意義、課題
・男女共習での配慮事項
・学習形態
・評価の観点

「生徒」
・男女共習の意識
・男女共習を進める上での課題
・学習の進め方
・評価の方法・評価の観点

『生徒・教師の意識と実態』　　『結果と考察』

図A．ダンスを学習することについての生徒の意識

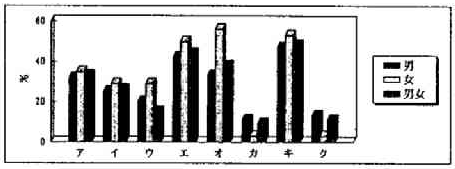


ア．これまで経験したことのない種目が経験できる
イ．特別なものではなく、他の種目と同様に考えている
ウ．将来ダンスをするための経験となる
エ．創造力が養われる
オ．リズム感がよくなる
カ．その他

「リズム感が良くなる」が一番多く、全体の29%であった。また、「経験したことがない種目が経験できる」も多かった。「将来ダンスをするための経験となる」と考えている生徒は少なかった。

教師は「武道は男子、ダンスは女子」という固定概念があると考えられるが、生徒はダンスについて特別な領域と考えていない。そのことから、教師の意識が変わることによって男女共習が可能と考える。

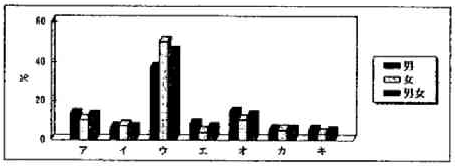
図B．ダンスを男女共習で実施することについて教師が意義として思うこと。



ア．男女の特性を理解することにより、協力性や思いやりが育成される
イ．男女の特性を生かして生徒同士が指導・援助することができる
ウ．男女の学習経験を生かして生徒同士が指導・援助することができる
エ．選択できる種目の幅が広がることにより、授業に楽しく意欲的に参加することができる
オ．生涯スポーツへ発展しやすくする
カ．照れ、恥ずかしさを取り除くことができる
キ．武道は男子、ダンスは女子という固定観念を取り払うことができる
ク．その他

「固定概念を取り払うことができる」・「選択種目が広がることにより、意欲的に授業に参加できるようになる」と考えている教師が多い。また、男女の特性を理解することにより、協力性や思いやりが育成される、という回答が多かった。

図C．生徒が男女一緒にダンスを学習する時に気になること。



ア．学習経験に違いがある
イ．体力に違いがある
ウ．男女間の照れ・恥ずかしさがつきまとう
エ．男女間の身体接触が気になる
オ．学習内容、学習形態など授業のやり方、進め方がよくわからない
カ．評価
キ．その他

男女共習のダンスで最も気になることは「男女間の照れや恥ずかしさ」で全体の45%であった。

生徒・教師ともに、男女間での「照れや恥ずかしさ」を課題と感じていることから、導入段階では照れや恥ずかしさを取り除く工夫が大切である。

図D．教師がダンスを男女共習で実施する上で課題となると思うこと。

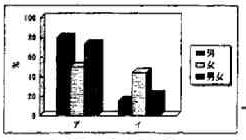
A．男子生徒のダンス経験が少ないということや体力の違いによる指導の困難さがある

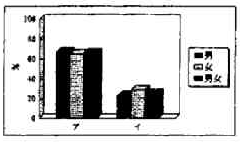
	ア	イ
男	93	17
女	17	15

B．男女間の照れ、恥ずかしさによる指導の困難さがある

	ア	イ
男	78	27
女	22	10

ア．はい
イ．いいえ



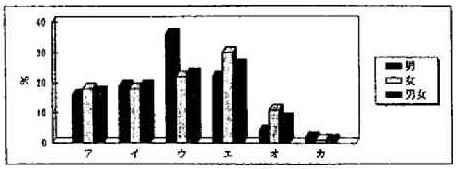


男女共習のダンスを実施する上での課題として、男女間での「照れや恥ずかしさ」による指導の困難さや男子生徒のダンスの経験が少ないことがあげられている。

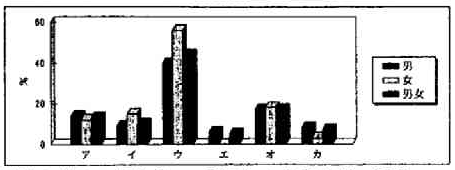
『生徒・教師の意識と実態』　　『結果と考察』

図E①（生徒）・図E②（教師）は男女共習でのダンスの授業ではどのような学習形態が良いと考えているか。

E①



E②



ア．基礎的な部分は男女共に、発展したら男女別に行う
イ．基礎的な部分は男女別に、発展したら男女共に行う
ウ．すべて男女共に行う
エ．すべて男女別に行う
オ．ジャンル別に男女関係なく行う
カ．その他

男子は「全ての学習を男女一緒に行う」と回答した生徒が多く、女子は「男女別がよい」と回答した生徒が多かった。

↓

基礎は教師の指導を中心に、練習に関しては生徒が自主的に行いたいという回答が多かった。

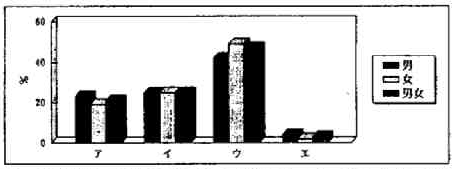
↓

女子は男子より「照れや恥ずかしさ」が強く、男女共習で行う上では、特に配慮が必要と考える。また、授業等で教師がどのようにかかわっていくかという工夫が必要である。

↑

学習形態については、「男女一緒に行う」が多く全体の44％であった。

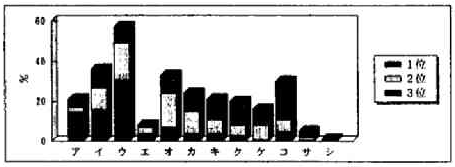
図F．生徒は男女共習でのダンスの授業ではどのような授業の進め方が良いと考えているか。



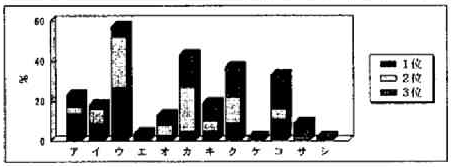
ア．生徒同士で計画を立てて実践していくような授業
イ．教師の指導を中心に進めていく授業
ウ．基礎的な技能は教師の指導を中心に、練習に関しては生徒が自主的にできるような授業
エ．その他

図G．生徒はどのような点を評価して欲しいと考えているか。
図H．教師がダンスを男女共習で実施する場合に評価のポイントとして重視する項目

G



H



ア．技能が目標に到達したかどうか
イ．技能がどれだけ上達したか
ウ．授業中どれだけ一生懸命やっていたか
エ．グループ内でどれだけリーダーシップがとれていたか
オ．仲間同志で教え合うことができたか
カ．個人やグループの技能に合わせて、練習内容や練習方法の工夫をすることができていたかどうか
キ．男女が協力して授業を進められたかどうか
ク．試合の結果や発表した作品のできばえ
ケ．鑑賞しているときの態度
コ．出席状況
サ．学習ノート等の記録
シ．その他

評価して欲しい項目は、「授業中どれだけ一生懸命やったか」が多く、評価方法については「自己評価・相互評価を重視し、最終的には教師に評価して欲しい」という回答が多かった。

↓

評価については、多くの生徒が自己評価・相互評価を生かしながら、最終的には教師が行って欲しいと考えている。生涯体育・スポーツを目指す観点からは、自己評価を中心とする学習評価活動が重要であり、教師だけではなく、生徒の意識改革も必要であると考える

↑

評価において重視する項目として、「授業中どれだけ一生懸命やったか」・「練習の内容や練習方法を工夫することができたか」という点を上げている。

9　研究の視点（ダンス）

学習指導要領の改訂や、近年のダンスブームの中にあっても、高等学校の授業におけるダンスは「女子の領域」としてとらえられることが多く、選択制授業や男女共習には不向きな領域として考えられてきた。しかし、これからの選択制授業においては、個性重視の考え方に立ち、生徒自らが自分の興味・関心や能力・適性等に応じた運動領域・運動種目を選択し、合理的な運動実践の方法や目標の設定、課題解決の方法等を学習することが求められる。

選択制授業におけるダンスの男女共習においては、男女の特性を生かしながらダンスの特性である「踊る楽しさ」・「創る喜び」・「見る楽しみ」を理解させ、仲間と協力して課題の解決を図ること及び教え合いや学び合いを通して個々の能力を高めることが、目標となる。

この点を踏まえたうえで、男女がともに楽しく実践し、生涯体育・スポーツの基礎となる自発的・自主的な態度の育成を目指すことを視点に研究を進めることにした。

(1)　男女共習の考え方

他の運動種目のように体力や体格の違いに不安を感じることは少ないが、照れや恥ずかしさを感じる生徒が多いことから、初期の段階でこの部分を取り除くことが大切である。そこで、導入段階では男女の経験差の少ないダンス（フォークダンス等）や生徒の興味・関心の高い現代的音楽のリズムにのって楽しく踊るダンスを取り入れ、さらに発展的段階では力強さやスピード感・しなやかさや優しさなどの男女の特性を理解させ、男女が互いの特性を生かし援助・協力しながら学習する場を設定する。

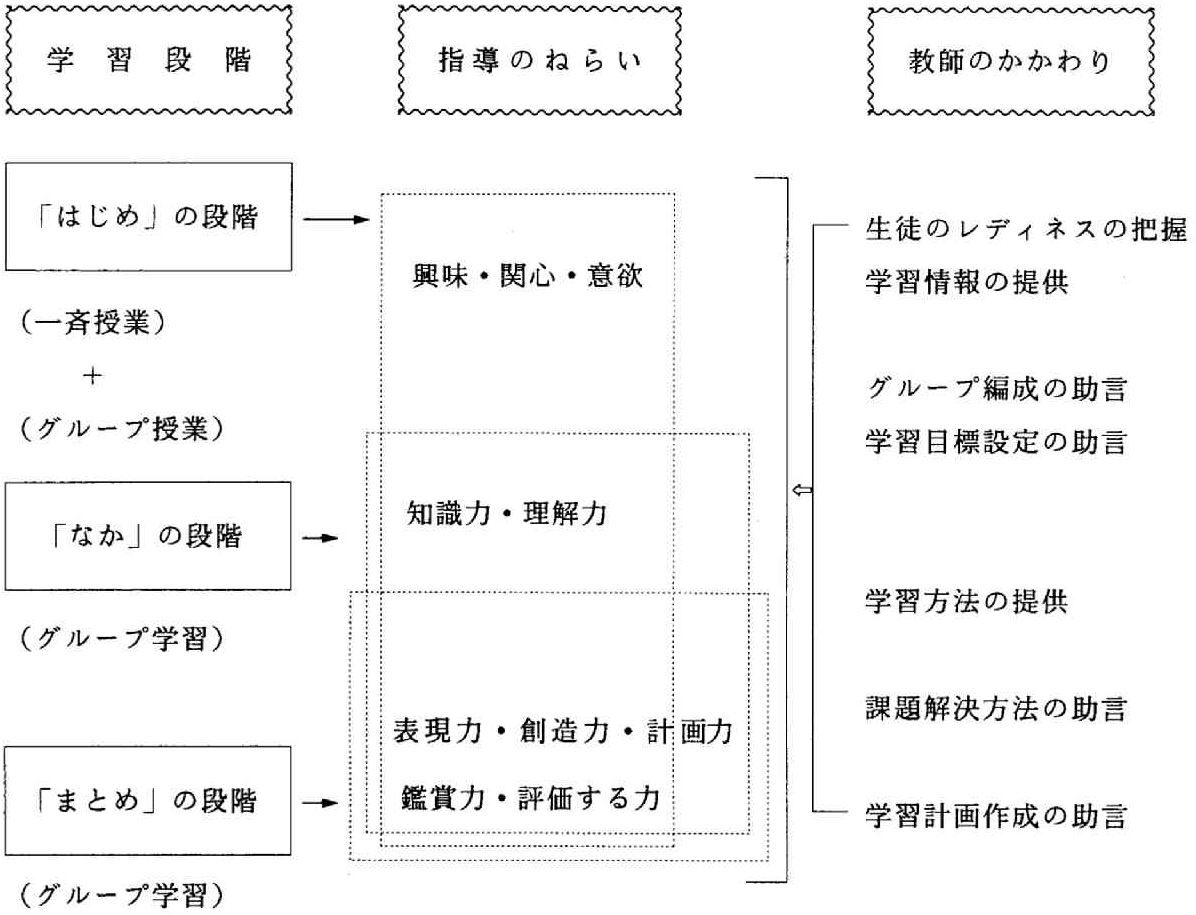
(2)　学習過程の工夫

①　「はじめ」の段階では「ダンスの楽しさを知る」ことに重点をおき、ＶＴＲ等で多様なダンスを紹介し、興味・関心・意欲を高め、同じ仲間とともに協力して自らが計画・実践することを理解させるため、オリエンテーションを充実させる。また、この段階では一斉授業で決められたダンスを踊ったり、ダンスを模倣することで踊る楽しさを味わわせながら、男女共習による照れや恥ずかしさを取り除き、お互いの特性を理解できるようにする。

②　「なか」の段階では「ダンスを創る喜びを知る」ことに重点をおき、グループでの学習を主体に、現在もっている力を最大限発揮できるよう課題を与えながら、基本的な動きに創意工夫を行い作品創りができるようにする。さらに次の段階では、興味・関心などに応じたダンスの選択とグループ編成を行い、グループでの作品創りを通して自らが学習計画を作成し、お互いに教え合いや学び合う中で課題解決の方法や相互協力の態度を育成する。

③　「まとめ」の段階では「ダンスを見る楽しさを知る」ことに重点をおき、お互いのダンスを鑑賞することにより自己の課題発見、グループの目標設定の方法及び評価活動について理解させる。

学習過程の工夫と教師のかかわり



(3) 学習段階に応じた教師のかかわり方

① 「はじめ」の段階においては、教師の指導を中心とした一斉授業により生徒の興味・関心・意欲を高めるため様々な種類のダンスを紹介したり、ビデオカメラで生徒の動きを撮影し自己の動きや能力等について確認し、学習活動が円滑に進められるようアドバイスする。

② 「なか」の段階、「まとめ」の段階ではグループでの学習を中心に生徒がより自発的・自主的に学習に取り組めるようにグループノート・個人ノートなどを活用して課題解決方法・学習計画の作成等についてアドバイスを行う。

③ 実際の学習場面では一人一人の生徒をよく観察し、必要に応じて言葉かけや個別指導などを行いながら、次の目標の設定や課題の解決に役立つようにグループを支援する。

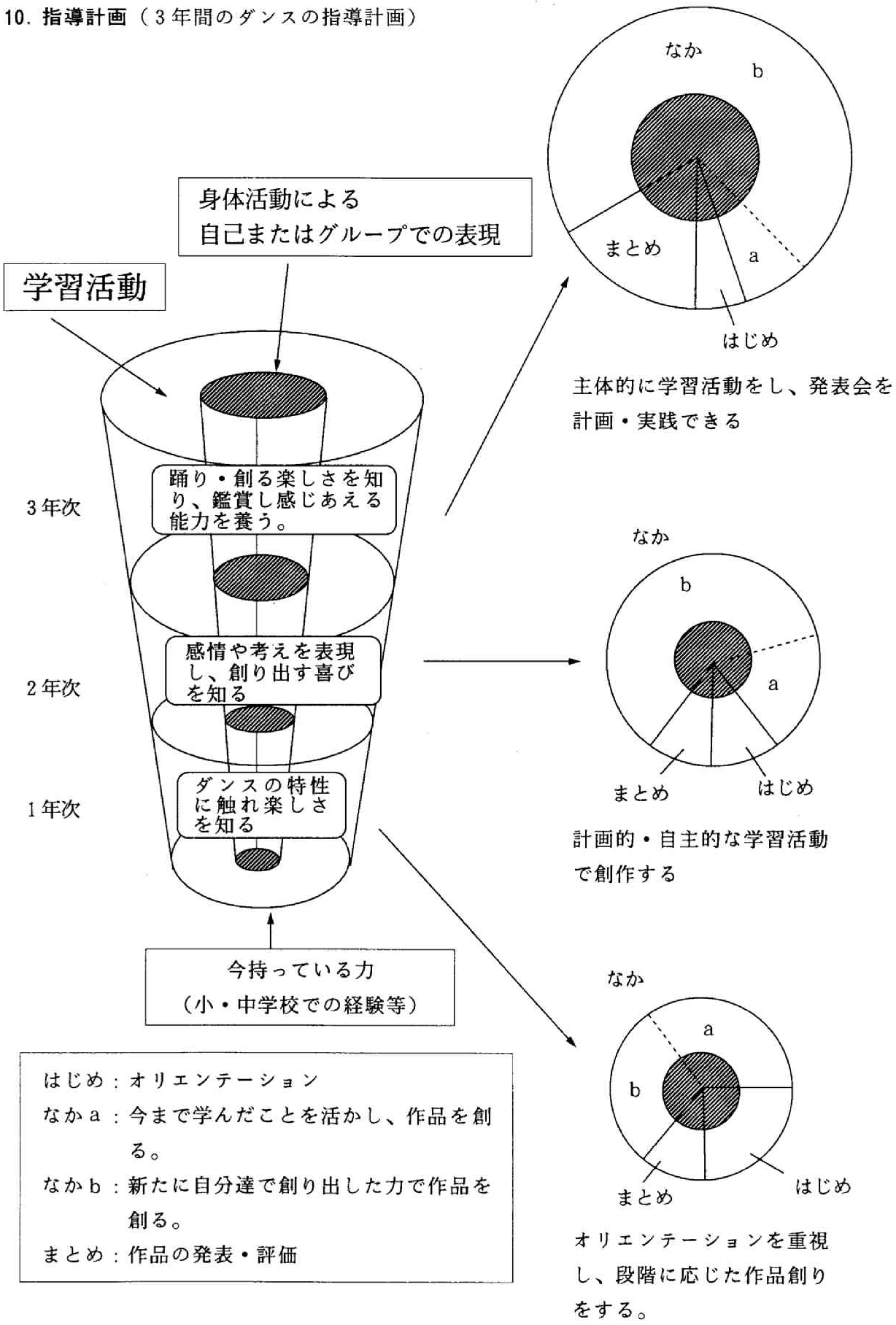
グループ編成へのかかわり方

男女混成の編成（教師主導型）	⇨	興味・関心、学習段階に応じた男女混成の編成（生徒主体型）

(4) 評価方法の工夫

選択制授業のねらいを踏まえ、生徒の自主的・自発的な学習への取り組み方や運動の学び方、目標の達成状況や学習課題など自分の状況を自分で把握し、次の目標設定や課題解決に役立てながら学習を進めて行くために、生徒による自己評価・相互評価と教師による評価を毎時間行うようにする。

10. 指導計画（3年間のダンスの指導計画）



はじめ：オリエンテーション
なかａ：今まで学んだことを活かし、作品を創る。
なかｂ：新たに自分達で創り出した力で作品を創る。
まとめ：作品の発表・評価

(1) 学習指導計画（１年次のねらいと指導計画）

① ダンスの特性

個人やグループの感情や考えを動きで表現していく中で、リズムに乗って踊る楽しさ、動きや演出を工夫して創っていくおもしろさ、仲間の踊りを見て共感しあう喜びを味わい新たな自分や仲間の個性を発見することのできる運動である。

② 学習のねらい

ア ダンスの特性を理解し、リズムにあわせて踊ったり、何かになりきって踊る事により、ダンスの楽しさを味わうことができるようにする。

イ 互いの学習経験や男女の特性を踏まえながら、個人やグループが目標をもち、課題を見つけ協力しあいながら計画をたて、主体的に学習する能力と態度を養う。

ウ 学習への取り組みや段階に応じた課題の設定について、適切な自己評価・相互評価ができる能力と態度を養う。

エ それぞれが決められた役割を果たし、練習の仕方を工夫することにより、安全に留意しながら活動できる能力と態度を養う。

③ 学習指導の方針

ア 学習内容や習熟度に応じて一斉授業とグループ学習を併用し、ダンスの特性・男女の特性を生かした学習過程や、教師のかかわりを工夫することにより、生徒が主体的に授業に取り組むようにする。

イ さまざまなダンスの種類を紹介したり模倣することにより、初期の段階から男女共習による恥ずかしさを取り除く工夫を行い、ダンスの楽しさに触れることができるようにする。

ウ グループ分けは男女の特性や経験の違いなどを考慮した上で行い、それぞれのよさを理解し、協力しながら学習できるようにする。

エ 毎時間、自己評価・相互評価を行うことにより、学習を振り返らせたり、新たな課題を発見できるようにする。

オ 学習段階に応じた課題発見のために、学習資料やＶＴＲ・グループノート・個人ノートを有効に活用させる。

11. 選択制授業における男女共習のダンスの単元計画（配当時間25時間）

段階	はじめ	な	か		まとめ
時間	4	7	3	8	3
学習内容	オリエンテーション 班編成 男女で踊る 役割分担	基本の動き ↔ 基本の動きの連続 即興 ↔ 作品つくり 発表 鑑賞 評価	オリエンテーション グループ編成 役割分担 ダンスの選択	基本の動き ↔ 基本の動きの連続 即興 ↔ 作品つくり	発表 ↑↓ 鑑賞 評価
学習形態	一斉授業・班別学習	一斉授業・班別学習・班別発表	一斉授業・グループ学習	グループ学習	一斉授業・グループ発表 グループ学習
学習活動	◇選択制授業の概要、男女共習の授業形態を理解する。 ◇ＶＴＲ教材で多様なダンスを鑑賞する。 ◇班編成を行う。 ◇男女共習についての感想文を提出する。	◇基本の動きを正しく身につけ、リズムにのって音楽にあわせて楽しく踊る。 ◇班内で、動きを変化発展させ作品づくりを行う。 ◇班毎に３分程度の発表を行う。 ◇班毎の自己評価、相互評価をする。	◇ＶＴＲ ◇グループ編成を行う。 ◇踊りたいダンスを、選択する。 ◇学習計画を、立案・作成する。 ◇役割分担を、決定する。	◇毎時間の学習計画の作成をする。 ◇毎時間の学習計画の確認をする。 ◇学習計画に基づく自主的な活動を行う。 ◇自己評価・相互評価を、個人・グループで実施する。	◇グループ毎に発表内容を明確にさせ作品発表を行う。 ◇グループ毎の自己評価・相互評価を行う。 ◇学習ノートの整理をする。 ◇グループ毎に、学習全体のまとめをする。 ◇アンケート、感想文を書く。
（教師の指導の上かの留意点）	◇選択制授業の概要を説明する。 ◇男女共習の授業形態について理解させる。 ◇学習段階に応じた課題が設定できるように、助言する。 ◇多様なダンスを鑑賞させて興味関心を引き出させる。 ◇グループの編成は、あらかじめ決定しておく。	◇学習ペースは、グループ・個人で差があることを理解させる。 ◇ＶＴＲ、ビデオカメラを利用して、動きの模倣、課題の発見ができるように工夫する。 ◇グループ練習や、個人練習が積極的にできるように個々の課題を明確にさせる。 ◇自己評価・相互評価は、個人・グループの現状と学習成果を把握し、新たな課題の発見に活用させる。 ◇グループ毎の発表内容が適切であるか助言する。自己評価、相互評価が適切であるか確認する。	◇男女共習の授業形態について再度理解させる。 ◇踊りたいダンスを、選択させる。 ◇生徒の自主的な活動を観察しながら、グループ編成、役割分担、学習計画の立案・作成が適切か指導助言する。	◇学習計画は、事前に提出させる。 ◇学習内容が、計画通り実施されているか確認する。 ◇安全に留意して、学習活動が進められるように配慮する。 ◇自己評価・相互評価は、課題の達成度の確認、新たな課題の発見につながることを、理解させる。 ◇課題の解決、発見等の確認をさせ次時の学習計画を検討させる。	◇グループ毎の発表内容が適切であるか助言する。 ◇自己評価・相互評価が適切であるか確認する。 ◇鑑賞する態度について考えさせる。 ◇授業計画、授業内容、授業態度、授業に対する取り組みを振りかえさせる。 ◇男女共習、選択制授業を行った内容について生徒にアンケート、感想文を書いてもらう。
評価活動	○選択制授業における男女共習の意義が理解できたか。 ○●男女が互いに援助協力できたか。 ○男女で照れや恥ずかしさをのり越えて踊ることができたか。	○基本の動きができたか。 ○動きを変化、発展させることができたか。 ●○男女が互いに、援助協力して学習を進めているか。 ●自己評価、相互評価が適切に行われているか。 ●学習ノートの記入が適切になされているか。 ●○学習ペースに無理はないか。 ◎リーダーがグループを主導していたか。 ○楽しく授業に参加しているか。 ●◎グループの協力、話し合いがスムーズに行われているか。	○踊りたいダンスを選択できたか。 ●○グループ編成がスムーズに行われたか。 ○授業方法が理解できたか。 ○学習計画の立案・作成ができたか。 ●○役割分担がスムーズにできたか。	●◎課題達成に基づいた学習計画が、作成されたか。 ●◎学習が計画通りに実施できたか。	●◎協力して発表を行い鑑賞・評価しあうことができたか。 ●◎踊りの動きに曲が効果的であったか。 ○ダンスの特性に触れ楽しさや喜びを味わえたか。●○男女が互いに援助協力できたか。●○主体的に学習する態度が身についたか。●ダンスの技能習得ができたか。

（○自己評価　●教師による評価　◎相互評価）

12. ダンスの指導事例　（実証授業）

単元名　ダンス	配当時間　24時間中 17･18時間目	学年　第3学年　　男子6名　女子6名　計12名

本時のねらい

選択したダンスの学習計画をたて、グループ毎に自主的に活動する。

1、男女が互いに援助・協力しながら、リーダーを中心に課題に向かって工夫しながら練習する。
2、ダンスの基本の動き、ステップなどの技能を身につける。
3、音楽にあわせて、楽しく踊る。
4、安全に留意しながら学習活動ができる態度を養う。

施設用具	剣道場 視聴覚機材（カセットデッキ・ビデオカメラ等）・グループノート　・　個人ノート

段階	時間	形態	学習内容・学習活動		教師の指導上の留意点とかかわり方	評価活動
導入	10分	一斉	集合 挨拶 出席点呼 本時の説明	本時の説明とグループ学習の進め方を理解する。	グループ学習では、リーダーを中心に、互いの援助・協力が重要なことを理解させる。	本時の課題が理解できたか。
展開	5分	一斉	準備運動	全体のリーダーを中心に準備運動を行う。	ダンスでよく使う、足の運動を中心に十分に行わせる。	準備運動がしっかりとできたか。
	35分 休憩 10分 35分	グループ学習	＜Aｸﾞﾙｰﾌﾟ＞ 基本の動き ダンスの基本を音楽に合わせて踊る。 ↓ 作品創り テーマを設定しイメージした何を一番表現したいのかを発見する。 イメージしたものにふさわしい動きを創りだす。（一人の動き・全体の動き） 基本の動きのバリエーションから、作品づくりのモチーフを発見する。 モチーフを変化させながら全体の作品を構成する	＜Bｸﾞﾙｰﾌﾟ＞ 基本の動き ダンスの基本の動きを音楽に合わせて踊る。 基本の動きを自分でリズムをとりながら楽しく踊ることができるようにする。 ↓ 作品創り テーマを設定しイメージした何を一番表現したいのかを発見する。 基本の動きと今できる動きの中から、作品創りのテーマにふさわしモチーフを発見する。	それぞれのレベルに合わせ、基本の動きを、援助・協力しながら学習させる。 動きができない生徒に対し、リーダーと協力して指導助言する。 作品づくりを通して、自分のイメージしたことを、ダンスで表現することの楽しさを理解させる。 男女の違いや個人の違いを充分理解し、その上で個々を生かした作品づくりができるようにさせる。 1つの作品を作り上げるための計画を立て、それに従って協力して学習活動を実施できる能力と態度を養う 役割分担をさせ、与えられた責任を果たすことの大切さを理解させる。	互いに協力し、精一杯踊ることができたか。 基本の動きを正確に行おうと前向きに取り組んだか。 仲間と協力し、楽しく作品づくりができたか。 互いの理解が十分であったか。 課題達成の学習計画は適切であったか。また、計画通りに学習することができたか。 与えられた役割を十分に果たす事ができたか。
整理	15分	グループ学習 一斉	集合 本時のまとめと次時への予告 挨拶、解散	グループ毎に集合し、リーダーを中心に本時のまとめをし、次時の課題を発見する。 個人カードを記入し自己評価・相互評価をすることにより次時の課題を発見する。 発見された課題が次時の学習活動に生かされるように、学習計画をたてることを理解する。	グループ全体として、本時の課題に対して協力して取り組むことができたか話し合わせ、その中から次時の課題を発見し、学習計画に反映させる。 自己評価・相互評価をさせることで次時への課題を発見させる。 学習ノートの記入と提出を確認する	リーダーを中心に計画通りに本時の課題が達成できたか、確認する。 個人カードを記入し、自己評価・相互評価を行う。

13. ダンスの指導結果と考察

仮説を実証するため、実証授業の後に、授業を受けた生徒を対象に「ダンスに関するアンケート」を実施した。その調査結果と考察は以下の通りである。

（アンケート対象：都立高等学校２校　第３学年男子９名、女子12名　計21名）

(1) 授業全体を通して、「リズムにのって楽しく踊ることができた」、「お互い協力しあったり、助け合ったりしながら学習活動に取り組むことができ、楽しかった」、「男女一緒の授業は楽しかった」、「機会があればまたダンスをしたい」と全員が答えていることから、１年次のねらいであった「踊る楽しさ」を味わわせることができたと考える。

(2) 男女共習の授業形態については、「照れや恥ずかしさを越えて踊ることができた」、「照れ恥ずかしさはなかった」と95％の生徒が答えている。また、「上達は男子の方が早い気がする」、「男女それぞれ経験の違う人とダンスをするのもおもしろい」と答えている生徒もいた。このことから、「はじめ」の段階で導入としてフォークダンス等を取り入れ、男女一緒に踊ることのできるダンスを行ったり、「なか」の段階で、興味・関心のあるダンスを選択させ、男女関係なくグループ編成を行うことで、照れや恥ずかしさを取り除き、男女の特性を理解しながら授業を行うことができたと考える。

(3) 全員が「オリエンテーションで、ダンスの興味が膨らんだ」、「ダンスの種類や踊りの違いがわかった」と答えている。また、学習過程の「はじめ」の段階で、ＶＴＲを使って多様なダンスを紹介し、模倣したり、授業の進め方を教師が指導することで、「学習の進め方がわかった」が86％、「踊りたいダンスを選択するのに役立った」が90％であった。このことから、１年次で、オリエンテーションを重視していくことは、大きな意義があると考えられる。

(4) 学習過程の「なか」の段階で、教師指導のグループ編成での活動について、「活動計画を自分でつくることが出来た」、「自分たちで立てた活動計画が実行できた」と答えている生徒が50％であるのに対して、興味・関心に応じた生徒中心のグループでの活動については、全員が「自分たちで立てた活動計画が実行できた」と答えている。また、「今までの授業（一斉授業）よりも学習意欲が高まったと答えていることからも、生徒が主体的に学習活動を進めていくことにより、生徒一人一人の課題に応じた学習が展開され、ダンスの特性をより深く味わうことができたと考えられる。

(5) 「まとめ」の段階では、作品の発表・鑑賞の機械を設定し、毎時間、自己評価・相互評価を行ってきた。このことに対して、「自分の課題やグループの課題を発見し、練習方法等を考えるのに役立った」、「自分の学習活動を振り返り、お互いに教え合うことができた」と全員が答えており、生徒が学習成果を発表し、自己評価・相互評価することによって、新たな課題の発見や目標の設定に大いに役立ったと考えられる。

(6) 教師のかかわりについては、「はじめ」の段階における、ＶＴＲ等の学習情報の提供は、生徒の興味・関心を高め、意欲をもたせるのに有効であったと全員の生徒が答えている。また、「なか」の段階における「グループノート・個人ノートへの教師のアドバイス」は、「とても参考になった」が95％、「教師のアドバイスを生かすことができた」と90％の生徒が答えている。このことから、学習段階に応じた言葉かけや学習ノート等を通してのアドバイスは、学習目標の設定・学習計画の立案に効果的であったと考えられる。

14. まとめと今後の課題

(1) まとめ

本研究において、ダンス班は選択制授業におけるダンスの男女共習を通して、研究進めてきた結果、次のことが明らかになった。

① ダンスの特性を理解し、リズムにのって楽しく踊るために、ＶＴＲ等を使った導入段階の工夫を行ったり、踊りたいダンスを選択をしてグループでの学習を行うことは、自発的・自主的に学習を進めるうえで、大きな役割を果たした。

② 男女共習でダンスを学習する上での「男女間の照れや恥ずかしさ」は、実証授業前のアンケートでは大きな課題であったが、「はじめ」の段階で男女一緒に踊るダンスを一斉指導の形で取り入れたことは、「照れや恥ずかしさ」を取り除く１つの方法として有効であった。このことから、１年次から男女共習の学習形態を取り入れることは、事前のアンケートで感じているほど困難ではないと考える。また、自己の興味・関心にあったダンスを選択しグループによる学習活動を行うことは、「照れや恥ずかしさ」をさらに取り除くとともに、互いに教え合いや学び合う中で、課題解決の方法や相互協力の態度を育てることにつながり、主体的に学習する態度を培う上で大いに有効であった。

③ 教師がＶＴＲ等を活用した「視覚・聴覚」に訴える学習資料を提供することは、個人やグループの目標設定や課題解決にとって大きな効果があった。また、グループでの学習を進めていく上で、課題の解決方法が見つからなかったり、学習計画が生徒同士だけではうまく立案できない場合、教師による 「言葉かけ」や「学習ノート」を通したアドバイスなどの支援はたいへん有効であった。

④ 今回、学習過程の中で、「まとめ」の段階の目標を作品の発表・鑑賞において学習を進め、毎時間、自己評価・相互評価を行うことは、主体的に活動する上での課題発見や目標設定、学習計画の作成に効果が大きかった。

(2) 今後の課題

① 主体的に考え判断し、進んで学習する能力と態度を培う学習過程の工夫を一層図る必要がある

② 男女間の照れや恥ずかしさを取り除くための学習過程及び男女の特性を生かした工夫をする必要がある

③ 視聴覚機器による学習資料の活用の工夫をする必要がある

④ 各学校の実態に即したダンスの指導計画を作成する必要がある